

との相関をみた。

3. 以上によって実技の成績評価と過去の学習経験の間に、ある程度の相関値を得た。

ただし自己評価による器用さとの間には特に相関はみられなかった。

C—49 まつりぐけに関する研究

金蘭短大 稲田 しげ
○北田 伸子

1. 被服の縫製において素材を縫合する場合運針（ぐしぬい）がその基礎となることはいうまでもないが、さらにこれに伴って縫代、縫込みのしまつ又は端の線をととのえる場合等、必要欠くべからざるものにまつりぐけがあると思う。しかるに従来これについての技能的研究は割合に少ないと思う。そこでいささかこの実態を解明して指導の指針を得たいと思った。

2. 短大入学生約200名について、全然指導を行なわない段階においてまつりぐけの実技を課した。材料40番白ブロード、巾20cm、長さ46cm、糸赤ダルマ印手縫糸60cmをあたえて出来上り巾3cmにブラウスの裾にみたてて、まつりぐけを行なわせた。一方において今までの学習経験について調査を行ないその資料と実技成績評価